

令和4年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（全体）

大野市公共交通活性化協議会 （福井県大野市）

平成20年2月29日設置

平成31年3月 大野市地域公共交通網形成計画策定
（計画期間：平成30年4月～令和6年3月）

令和4年6月28日 フィーダー系統 確保維持計画策定等

令和5年1月12日 令和4年度評価結果送付

1. 【Plan】 協議会等が目指す地域公共交通の姿

<大野市地域公共網形成計画> (H31~H35) (平成31年3月策定)

●地域の特性と背景

- ・ **大野市**：福井県の東部に位置し、人口31,122人（R4年10月1日現在）、福井県内最大の面積（872.4km²）
- ・ **高齢化率**：37.5%（令和2年国勢調査）（県内でも3番目）と全国平均（28.6%）を大きく上回る
- ・ **公共交通**：広域交通 → JR越美北線、京福バス大野線、京福バス勝山大野線
地域内交通→まちなか循環バス（市街地）、乗合タクシー（田園部）、市営バス（山間部）

●大野市地域公共交通網形成計画の要点（H31.3策定、期間：H31～H35（R5））

○公共交通の将来像

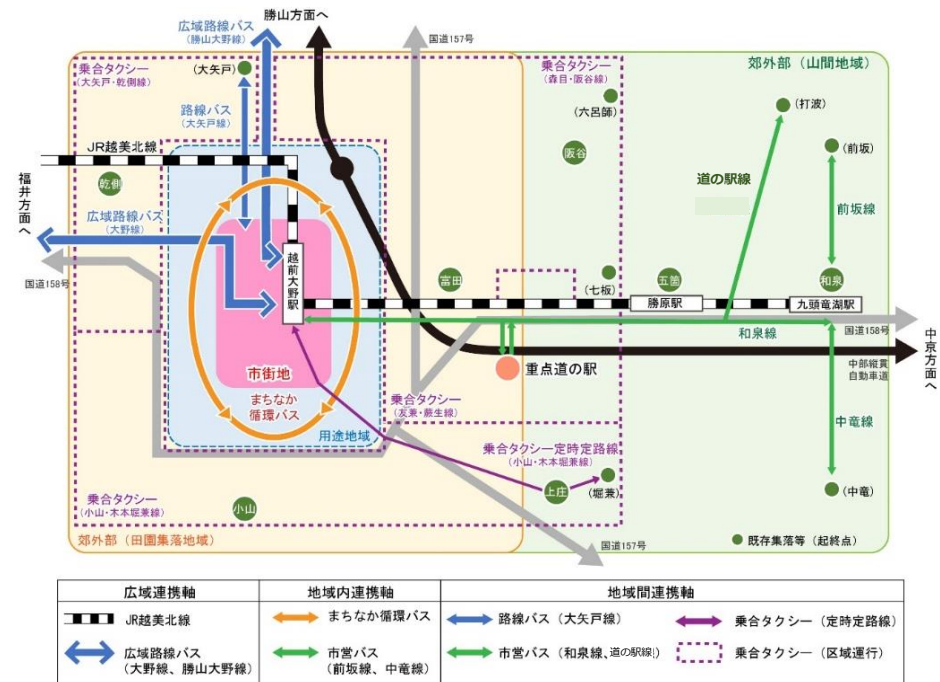
『地域で暮らし続けることができるまちづくりと連携した持続可能な公共交通』

○基本方針

- ①交通機関の役割と特性を活かし、
住み慣れた地域で住み続けられる
公共交通の実現
- ②市民の積極的な利用による、将来に
わたって持続可能な公共交通の実現
- ③様々なまちづくり分野と連携し、
外出機会及び波及効果を創出する
公共交通の実現

○目標値

- ・ 年間利用者数 / ・ 1 便当たり利用者
- ・ 収支率 / ・ 公共交通利用者の満足度
- ・ 公共交通利用者の利用意識
- ・ 運転免許自主返納支援事業の利用件数 など



●具体的な取組み内容（主に補助対象路線） ※赤字は今年度実施 / ★：補助対象路線

①運行見直し

★**まちなか循環バス：運行の安全性確保のためのルート変更**

他の公共交通（JR越美北線、京福バス）との接続強化のためのダイヤ変更

「篠座神社参道口」の停留所を、安全性を考慮し交差点付近から移設

★乗合タクシー友兼・蕨生線：道の駅「越前おおの 荒島の郷」に停留所を追加

○市営バス：「道の駅線」の新設（白山線の変更）

「和泉線」に道の駅「越前おおの 荒島の郷」停留所を追加

②利用促進

- ・マイ時刻表作成の開始 ⇒ H29.6月～ 市内だけでなく、他市の情報も掲載
- ・運転免許自主返納支援制度 ⇒ H24～
- ・まちなか循環バスの定期券購入者に対する買物券進呈（小売事業者の協力によるもの）
- ・広域路線バスの市内区間の利用に対する助成（65歳以上の市民が対象）
- ・民間バス会社の定期券利用範囲の拡大（市内公共交通も対象に追加）
- ・市内高校、後期高齢者説明会等において、公共交通利用のチラシを配布または説明会を開催し利用を周知
- ・各地区ごとに公共交通に関する意見交換会の実施（8地区で実施（R3））
- ・**まちなか循環バス定期券の障がい者等割引の導入**

③新型コロナウイルス対策

- 交通事業者による感染予防の徹底（車内に消毒液の設置、喚起の徹底、感染予防シートの設置等）
- 駅前広場バス待合所、バス車内に感染予防に係る注意喚起のチラシ掲示
- 市内公共交通事業者に感染症予防対策のための支援金の交付

3. 【Check】 計画の目標の達成状況とその理由についての考察

●公共交通網評価の基本的考え方と評価基準

評価項目	目標	設定理由
年間利用者数	市民一人当たりの利用回数を1~2割増加	過去最も利用率が高かった割合を設定
1便当たり利用者数	〃	過去の利用傾向を踏まえ設定
収支率	現状よりも改善	上記を基に設定

1) 目標指標に関する評価 【補助対象路線】 ※上段：総利用者数、中段：便利用者数、下段：収支率

路線	目標値 (R4)	実績値 (R4)	評価
まちなか循環バス	18,800人 6.03人/便 8.1%	11,771人 3.88人/便 4.0%	C ・昨年より利用者は微増したが、高校生に対するバス通学のPRや利用促進が必要
乗合タクシー合計	5,370人 2.01人/便 7.7%	2,971人 1.35人/便 4.4%	C ・利用が低迷しており、安全対策等による利用の呼び戻しや新規の利用者確保に向けた利用促進が必要
大矢戸・乾側線	320人 1.45人/便 —	307人 1.20人/便 —	C ・昨年より利用が少なく、抜本的な対策の検討が必要
森目・阪谷線	2,600人 2.23人/便 —	1,407人 1.49人/便 —	C ・昨年より利用者は微増したが、コロナ禍の影響が継続しており、新たな定期利用者の確保が必要
友兼・蕨生線	1,050人 1.82人/便 —	581人 1.17人/便 —	C ・コロナ禍の影響が継続し、昨年より利用者は減少 新たな定期利用者の確保が必要
小山・木本堀兼線	1,400人 1.95人/便 —	676人 1.35人/便 —	C ・コロナ禍の影響が継続し、昨年より利用者は減少 新たな定期利用者の確保が必要

2) その他路線に関する評価 【非補助対象路線】市営バス、市内路線バス、広域路線バス

- 市営バス（道の駅線・和泉線・前坂線・中竜線）・市内路線バス（大矢戸線）
児童・生徒の利用数増加により、前坂線は増加。和泉線、中竜線、市内路線バス（大矢戸線）は児童の利用数減少により減少。新設した道の駅線利用は昨年度より減少。
- 広域路線バス（京福バス大野線、勝山大野線）
大野線、勝山大野線共に昨年より利用が増加したものの、コロナ禍前の水準には回復していない。

【自己評価から得られた課題】

① 目標の達成状況に関する課題

- コロナ禍前と比べ公共交通利用者は依然として減少。需要がコロナ禍前の水準に戻ることは困難な状況

→安全・安心に外出できる環境整備や、適切な周知・PRによる利用促進（呼び戻し）が必要

② 公共交通ネットワークに関する課題

- 児童・生徒の通学手段や高齢者の買い物・通院等の日常生活を支える上で必要不可欠な路線の維持
- 中部縦貫自動車道 大野IC－九頭竜ICの開通（R5年度中）、北陸新幹線福井・敦賀開業（R5年度末）、中学校の再編（R6年4月）予定

→ウィズ/アフターコロナや中部縦貫自動車道の開通、北陸新幹線福井・敦賀開業、中学校再編を見据えた公共交通ネットワークの見直し

③ 公共交通の維持に関する課題

- 利用者減少による交通事業者の経営悪化
- 定期的な利用者の高齢化等による利用減少が顕在化

→利用者ニーズに応じた運行内容・サービスの充実による新たな利用者の確保が必要

【今後の方針】

<全体>

- ウィズ/アフターコロナを見据えた公共交通のあり方の検討
- 地域公共交通計画の策定及び市内公共交通ネットワーク再構築の検討
- 他分野との連携をはじめとした「共創」の検討
- マイ時刻表の周知等による利用促進

<まちなか循環バス>

- 高校生、高齢者への安全性の周知及び利用喚起
- ニーズや利用実態、他の公共交通ネットワーク再構築にあわせた運行内容の見直し検討

<乗合タクシー>

- 地域住民のヒアリングを踏まえた新たなデマンド交通の検討
- 地域の実情に応じた共助型交通の導入検討

<市営バス>

- 中部縦貫自動車道の開通や中学校再編を見据えた公共交通ネットワーク再構築の検討

<市内路線バス>（京福バス大矢戸線）

- 運行補助の継続による通学手段の確保

<広域路線バス・JR>（京福バス大野線、勝山大野線）

- いきいき定期券等のお得な乗車券の周知拡大
- 市内区間利用助成（100円乗車）の継続
- 運行継続に向けた事業者への支援（運行補助）
- 新幹線開業を見据えたMaaSの取り組みの推進
- 高校生の通学利用の補助（勝山大野線）
- J R越美北線と連携した利用促進
（戦国列車と連携した利用促進、情報発信等）

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前回	各地区で開催された意見交換会により集約された意見について、分類・整理されるとともに、要望が多い事項や対応が必要と考えられる事項について、取組の必要性を検討されることを期待します。	<ul style="list-style-type: none"> ・阪谷地区との意見交換会において地域住民主体の地域交通に対する意見あり ・地区住民へのアンケート調査を実施し、一定のニーズがあることを確認 ・地区住民との意見交換や会議を開始 	地区住民と勉強会を行い、住民主体の地域交通の実施を含めた検討を進める。出された意見等を地域公共交通計画と公共交通網の再構築に反映する。
	道の駅へのアクセス交通について、利用促進に努められるとともに、利用動向を整理・分析され、必要に応じて運行計画の随時見直しを図られることを期待します。	<ul style="list-style-type: none"> ・道の駅線とJR越美北線、京福バス、まちなか循環バス、勝山大野ラインとの接続を強化するためにダイヤを改正し、道の駅へのアクセス性向上を図った ・道の駅線の利用動向から12月以降の利用者数が大きく減少したことを踏まえ、R4年度の運行計画を見直し(12～3月は運休) 	今後の利用動向を整理・分析し、必要に応じて運行計画の随時見直しを図る。
	北陸新幹線開業を見据え、開業の効果を生かせるよう、受け入れ体制の整備等を着実に進められるよう期待します。	<ul style="list-style-type: none"> ・北陸新幹線開業を見据え、観光周遊バス「勝山・大野ライン」の試験運行(R4.9.3～11.27、土日祝のみ運行)を実施 	試験運行の結果を踏まえ、今後の運行を検討。ふくいMaaSアプリによる企画切符の実証実験実施。
	市内を運行する地域間幹線系統のうち輸送量が低迷している系統について、現状や問題意識を県・関係市町村・関係事業者と共有すると共に、当該系統の必要性に応じ、利用促進や系統維持に向け県や関係者と連携して取組を実施されるよう期待します。	<ul style="list-style-type: none"> ・福井県や京福バスと大野線、勝山大野線の利用状況等を共有 ・大野線は、JR越美北線の定期利用者に対し京福バスの回数券購入助成を実施し、相互利用を促進 ・勝山大野線は、勝山高校への通学利用の利便性を高めるダイヤ改正と通学利用に対する補助を実施 	JR越美北線定期利用者や大野市から勝山高校通学者への周知を図り、利用促進を図る。
前々回	市外への病院等への利用もあることから、マイ時刻表に市外の公共交通情報も掲載し、外出の促進。また観光や商業等との連携による公共交通とまちづくりの連携による意識啓発と利用促進に取り組まれていることを評価する。	<p>継続的にマイ時刻表の作成や、観光や商工業との連携を実施。【観光や商工業との連携内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・休日イベント日にまちなか循環バスの増便 ・まちなか循環バス定期券購入者に対してまちなか循環バス応援企画協力店からお買物券がもらえる。 	ウィズ/アフターコロナを見据え、各種まちづくりと連携した安全な公共交通の運行確保や周知・PRを図る。
	引き続き利用促進を実施されることを期待する。また、中部縦貫道開通を見据えたまちづくりに併せた公共交通の検討により、利用者が増加することを期待する。	令和3年4月22日の道の駅「越前おおの荒島の郷」開駅日に併せて、市営バス「道の駅線」の運行を開始予定。また、関連する乗合タクシーに停留所を追加予定	運行の実績を踏まえて、運行内容などを見直し、利用促進を図る。

【年間単位の進捗管理、評価スケジュール】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
協議会			①					②			③	
部会											①	
実施すること			(確保維持改善計画)	交通事業者へのヒアリング 公共交通ネットワーク再構築の構想				次年度予算要求 地域公共交通計画策定着手			(第三者評価委員会)	
地域協議							公共交通ネットワーク 再構築に向けた地区別協議				新しい公共交通ネットワーク 構築に向けた詳細協議	

【協議会の実施状況】

第1回協議会 6月23日

主な議題：R3利用実績、二次評価結果、確保維持改善計画、運行等見直し関係

第2回協議会 11月9日

主な議題：R4上半期利用実績、共助型交通等の進捗報告、自己評価、
地域公共交通計画策定関係（スケジュール・総括・再構築の方針等）

第3回協議会 2月下旬（予定）

主な議題（予定）：地域公共交通計画策定関係（アンケート結果・総括・骨子案等）

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年11月9日

協議会名: 大野市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名・運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価	A・B・C評価	【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】 【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
まちなか循環バス		▼R3年評価結果の反映状況		R4年度目標: 年間利用者18,800人、便利利用者6.03人、収支率8.1%	
<ul style="list-style-type: none"> 京福バス株式会社 「まちなか循環バス赤バス」 大野観光自動車株式会社 「まちなか循環バス青バス」 	越前大野駅を中心に、市街地北部と市街地南部を8の字で運行する路線定時運行	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症対策の継続実施 市内高校における保護者向け説明会・チラシの配布による利用喚起 交通利用が分からない者に対し、マイ時刻表を作成による利用促進 高齢者の集会における市内公共交通の周知説明による利用促進 定期券購入者に対する買い物券や市営バス道の駅線割引券の発行 定期券の障がい者等割引導入 運転免許自主返納支援事業等の継続的実施 運行の安全性確保のためのルート変更 他の公共交通との接続強化のためのダイヤ変更 「篠座神社参道口」の停留所移設 	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	C 【概要】 ・昨年より利用者は微増 ・高校生に対するバス通学のPRや利用促進が必要	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症対策の継続・改善 安全性の周知・PRの実施による利用促進(特に高校生等の通学利用への喚起) マイ時刻表の周知や総合時刻表マップの配布による利用促進 観光や商業等のまちづくりとの連携による新たなお出かけの創出による利用促進(バス乗車無料券の配布など) 運行内容(ダイヤ改正等)の見直し検討
乗合タクシー		▼R3年評価結果の反映状況		R4年度目標: 年間利用者5,370人、便利利用者2.01人、収支率7.7%	
大野旅客自動車有限会社 「乗合タクシー大矢戸・乾側線」(予約)	市北西部の下庄・乾側地区の集落を経由し、市街地の医療機関・公共施設を運行する区域予約運行		A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	C ・年利用者: 目標320人、実績307人 ・便利利用者: 目標1.45人、実績1.20人 ・収支率(全体): 目標7.7%、実績4.4% →利用が少なく、抜本的な対策が必要	・新型コロナウイルス感染症対策の継続・改善
大野旅客自動車有限会社 「乗合タクシー森目・阪谷線」(予約)	市北東部の富田・阪谷地区の集落を経由し、市街地の医療機関・公共施設を運行する区域予約運行	・交通利用が分からない者に対し、マイ時刻表を作成による利用促進 ・利用促進として、福祉・介護、交通安全等の分野と連携した周知 ・運転免許自主返納支援事業等の継続的実施	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	C ・年利用者: 目標2600人、実績1,407人 ・便利利用者: 目標2.23人、実績1.49人 →定期利用者の減少やコロナ禍のため、昨年より利用者が減少	<ul style="list-style-type: none"> 安全性の周知や高齢者を対象としたバス利用説明会実施による利用促進 マイ時刻表の周知や総合時刻表マップの配布による利用促進
大野旅客自動車有限会社 「乗合タクシー友兼・蕨生線」(予約)	市南東部の富田・上庄地区の集落を経由し、市街地の医療機関・公共施設を運行する区域予約運行		A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	C ・年利用者: 目標1,050人、実績581人 ・便利利用者: 目標1.82人、実績1.17人 →定期利用者の減少やコロナ禍のため、昨年より利用者が減少	<ul style="list-style-type: none"> 健康・福祉・市民生活分野等との連携による利用促進、共創の検討
大野旅客自動車有限会社 「乗合タクシー小山・木本堀兼線」(予約・一部定時)	市南西部の上庄地区の集落・小学校を経由し、市街地内の越前大野駅・医療機関・公共施設まで運行する路線定時運行		A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	C ・年利用者: 目標1,400人、実績676人 ・便利利用者: 目標1.95人、実績1.35人 →定期利用者の減少やコロナ禍のため、昨年より利用者が減少	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民との意見徴集による地域に合った公共交通の検討

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和4年11月9日

協議会名:	大野市公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>将来像 『地域で暮らし続けることができるまちづくりと連携した持続可能な公共交通』</p> <p>基本方針</p> <ol style="list-style-type: none">①交通機関の役割と特性を活かし、住み慣れた地域で住み続けられる公共交通の実現②市民の積極的な利用による、将来にわたって持続可能な公共交通の実現③様々なまちづくり分野と連携し、外出機会及び波及効果を創出する公共交通の実現

